

○3番(島田 正彦君) おはようございます。

6月7日、土曜日、中部公園で開催をいたしましたマルシェ、小雨が降りましたけれど、そう暑くもなく、天候に恵まれて大盛況で終わりました。観光協会の皆さま、産業課の皆さん、建設課の皆さん、ご苦労さまでした。ありがとうございます。

この件につきましては一般質問の中で、再度お話をさせていただきます。

通告書に基づきまして、今日は4つの質問をさせていただきます。

1つ目は公園の役割と管理について、2つ目は防災・減災について、3つ目はジェネリック医薬品について、4つ目は北勢線の存続についてです。

まず最初に、公園の役割と管理について。

1番目、中部公園、中央公園など、大型公園と町内の小さな公園の役割をどのようにお考えでしょうか。

2つ目、災害時、これらの公園の果たす役割をどのようにお考えですか、具体的にお答えください。

3番目、5月に在来ネオポリス内の公園、36カ所を全て巡回をさせていただきました。公園のブランコ、滑り台、遊具、防犯灯など、かなり劣化が進み、危険を感じました。そこで公園のメンテナンスはどのようにされていますか。そのタイミング、方法をお聞かせください。

4つ目、36カ所の公園のうち、笹尾西7公園、笹尾東8公園、全て公園名の表示がありません。災害緊急時に公園名が明確でないと混乱が発生すると思います。早急に公園名表示が必要と考えますが、いかがでしょうか。

よろしく申し上げます。

○議長(木村 宗朝君) 山下誠司建設部長。

○建設部長(山下 誠司君) 島田議員の公園の役割と管理についてということで、お答えをさせていただきます。

1点目の中部公園・中央公園等大型公園と町内の小さな公園の役割についてでございますが、公園本来の役割といたしましては、まず、中部公園は総合公園として、東員町民はもとより、多くの方々の休息、散歩、遊戯、運動などにご利用をいただいております。笹尾中央公園は近隣公園として、主に笹尾地区の方にご利用をいただいております。他の小公園につきましては街区公園として、その街区や集落の方にご利用をいただき、住民の方にとっては一番身近な公園であると考えております。

次に災害時における公園の役割についてでございますが、現在、東員町地域防災計画では、笹尾中央公園は笹尾・城山地区を対象として、中部公園は神田・稲部地区を対象とした地区別避難所として、地震発生後の避難者の生命を保護するために利用していただく広域避難場所として位置づけております。

また、その他の小公園につきましては、広域避難場所へ避難する前の中継地点で、避難者が一時的に集合し、様子を見る場所、または集団を形成する場所として、集合した住

民等の安全がある程度確保されるスペースを有する一時避難場所として、それぞれの地域でご活用いただけるものと考えております。

次に公園遊具の保守点検でございますが、町内の公園遊具の保守点検につきましては、遊具設置の公園では、委託業者により従来から年間6回の定期点検を実施しております。その主な点検内容といたしましては、ボルトやナット類の締めつけ具合、接合部等の固定状況や亀裂、さび等の確認を行っております、必要に応じて点検時に応急処置を行っております。

また、今年度から中部公園におきましては、利用頻度の多さから年間8回の定期点検の実施を予定しております、利用者の安全確保に努めているところでございます。

定期点検の結果につきましては、報告書と写真で報告を受けておまして、その判定は「危険につき補修を要する」、「1年以内に補修を要する」、「異常なし」の3段階で判定されており、危険につき補修を要する旨の判定結果の遊具につきましては点検業者と現地を確認し、順次修繕を行っておりますが、修繕をする場合ですと、遊具の使用を中止するなど、その対策を講じております。

最後に公園の表示板の設置の設置でございますが、議員ご指摘のとおり、老朽化等により公園名の看板が欠落している公園がございます。公園は、子どもにとって安全で楽しい遊び場を確保するだけでなく、東員町地域防災計画に掲げられている広域避難場所や一時避難場所としてご利用いただくことから、公園の名称を記載した看板につきましては、看板の大きさや材質等も考慮し、設置する方向で検討してまいりますので、ご理解いただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長(木村 宗朝君) 島田議員。

○3番(島田 正彦君) ありがとうございます。

中部公園を除くそのほかの公園の経費というのは、約2,000万円ということになってますけれど、2,000万円ですね、ほかの公園のメンテナンスを含めて。全部で平成26年度の公園維持管理費というのは6,000万円ありまして、そのうち中部公園の管理委託料が3,600万円、それを引いた後の小さな公園、その他はこの2,000万円で行っているということですね。

私も36カ所ですか、公園全部回らせていただきまして、つぶさに見てきたんですけど、年8回、メンテナンスをやられていると、チェックをね、その割にはちょっと余りにも劣化が進み過ぎているような気がしまして、恐らくさびを劣化と言ってしまうと、全部さびているのかわかりませんが、滑り台ではトップのところに穴が空いていたり、メンテナンスを本当にされているのかなという気が非常にしますけど、その点もう一度お答え願えませんか。

○議長(木村 宗朝君) 山下建設部長。

○建設部長(山下 誠司君) メンテナンスされているのかいないかということでございますけども、結論的に申しますと、メンテナンスをさせていただいておりますというのが現状で

ございまして、その頻度につきましては、今のところ大きな事故につながったというところ
がございませんので、中部公園につきましては8回というふうに申し上げたんですけども、
年6回の点検で現在のところは十分ではないかというふうには認識しておりますけども、
器具自体の劣化のスピードというのは早まるわけですので、これからも実際の点検結果
を参考にしながら頻度を上げていくということも考慮させていただきたいというふうに考え
ておりますので、よろしく申し上げます。

○議長(木村 宗朝君) 島田議員。

○3番(島田 正彦君) 事故が起こってからでは、いつも私申し上げているんですけど
遅いんですね。未然防止するためにメンテナンスがあるということですから、その辺を留
意をしていただきたいと思います。

遊具などの整備とか管理の問題で、平成19年から平成23年の5年間、データがござい
ます。救急搬送された件数は5年で全国3,281件、滑り台がそのうちの16%、ブランコ
が14%ぐらい、この2つが大半を占めているのです。これはあくまでも救急搬送された件
数でございますので、救急搬送されない方を入れるとかなりの数になっているのですね。
だから今のところ事故は起こってないから安心だという考えは甘いと思いますから、私が
一番思うには、役場の方が実際に公園を見られているのかどうか、隅から隅までね。月1
回でもいいですから、自分たちの目で現場に行ってみてもらうということを、再三、前から
申し上げているんですけど、現場主義に徹してもらいたいです。業者さんに任せ、写真
をいただいた、異常ないです、それだけで終わっていいんでしょうかね。その点ちょっと、
部長またお願いします。

○議長(木村 宗朝君) 山下建設部長。

○建設部長(山下 誠司君) 確かに事故が起こってからということではございませ
んので、当然未然に防ぐために、メンテナンスをしっかりとしていくというのは基本でござい
ますので、そのあたりは事故が起きてから対応するという、そういうつもりはございませ
んの、ご理解をいただきたいと思ひますし、毎日、毎月というわけにはいかないです
けども、点検の際に、うちの職員も同行して現場も確認しておりますので、全く見て
ないという状況ではございませんので、そのあたりもご理解をいただきたいと思ひ
ます。

○議長(木村 宗朝君) 島田議員。

○3番(島田 正彦君) 公園というのは、今おっしゃられたように防災とか皆
さんが憩う場所として非常に重要なんですけど、きちんとした管理がされてないと、
一転危険なスペースに豹変してしまいます。今の事故のようなことですね。

もう1つ懸念を持っているのは、公園の境界線がありますよね、高い木が道の隔
たりにありますけれど、道路から中が全然見えないのです。安全性から防犯性から
ものすごくまずいということで、いろんな市町では真ん中を抜いて、だれもが中
を見れるような形でやっていますので、私が30何カ所見た中で、結構そういう公園
が多いです。まるっきり道路から

見えないです。子どもが何をやっているのかも見えない。だからそういうのを少しすき間を空けてもらうような方法で、何か考えていただくことはできますかね。

○議長(木村 宗朝君) 山下建設部長。

○建設部長(山下 誠司君) 防犯という観点からしますと、見通しがいい公園というのは大事な要因だというふうに考えております。全く外から監視できないような状況ですと犯罪の温床になるということも、世間ではそういう事例もあるように伺っておりますので、当然、管理の面で見えない部分を少しでもなくしていくというような形で、例えば生け垣が密植していて見えないという状況であれば、そのあたりもすき間をつくっていくような管理もさせていたきたいと、そんなふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

○議長(木村 宗朝君) 島田議員。

○3番(島田 正彦君) 今のような公園がありまして、それを切ったことによって、今まで皆さん集まってないところに若いお母さんたちが集まって談笑する姿も多くなったというデータも出ておりますので、一度チェックしていただいて、そういうところがあれば計画に入れていたきたいと思えます。

それと先ほど中部公園のお話をさせていただきましたけど、公園の役割というのは非常にいろいろあると思うんですね。私は中部公園というのは、公園を経営するという観点から、経営する公園があってもいいと思うんです。公園を管理するだけだったら仕事は町でOKなんですけれど、経営となれば積極的に公園のにぎわいをつくり出さなければならぬと思えますし、収入を増やし、少しでも税金のコストダウンを図る必要があると思えます。

公園の美観に注視しながら、6月7日のイベントのような、定期的を実施して多くの集客を図って、お金を落としていただけるような仕組みをつくっていただければ公園の経営になると思うんですね。少しでも管理費を税金から削減するために、生むという努力もしていただきたいと思えますけれど、中部公園についての部長の考えをお願いします。

○議長(木村 宗朝君) 山下建設部長。

○建設部長(山下 誠司君) 基本的には多くの方々にご利用いただけるということが大事なことでございますし、その中でメンテナンスの費用とか、そういうものが生み出されれば、経営という言葉に当てはまるかどうかは別として、管理面でも非常に財政的に助かるという部分がありますので、そういうものが可能かどうかということも検討する必要はあろうかと思えますけども、現在の位置づけとしましては、先ほど申し上げたように多くの方々の休息であるとか、遊戯であるとか、運動などにご利用をいただいております、それにプラス戸上川が縦断しておりますので、親水公園的な役割も果たしておりますので、その中で料金を取って何とかするとか、経営感覚でもって何かをするというところは、今のところ持ち合わせてございませんけども、今後のメンテナンスの経費を捻出することからすれば、何らかの方法は考える必要があるのかなというふうには思いますが、今のところは特に持ち合わせてございませんので、よろしく願いいたします。

○議長(木村 宗朝君) 島田議員。

○3番(島田 正彦君) このように公園というのは多種多様ですから、その特性を生かして、町の財産としてもう少し成長させたいと思いますので、よろしくお願いします。

続きまして2番目の質問に入ります。防災・減災について。

2月21日に災害時要援護者・支援者のための防災・減災講座を受講しました。その中で災害時に動ける障がい者の防災、避難講座が非常に印象に残っております。これは4ブロックで開催されまして、耳の不自由な方、目の不自由な方、知的障がいをお持ちの方、車いすの方、各1時間の講座でございます。それぞれ耳の不自由な方の講義は、やはり耳の不自由な方が前に出て、いろいろなお話をされて、非常にシビアなお話を聞かさせていただきまして、私は必要を感じました。

災害時、一番リスクの高い障がい者が全国的に避難訓練に参加している率が非常に低いです。犠牲者を少しでも減らすために、避難訓練への参加が必要と痛感しました。当町の今後の取り組みに関してお聞かせください。

2番目、防犯灯を経済面・防犯面からLEDに早急に交換できないかという質問を以前にさせていただきました。従来の防犯灯は中に虫が入り、光を遮り、暗く、防犯上問題です。その後の交換状況をお聞かせください。防犯灯総数の中で、今、LEDは何本交換されたのでしょうか。

3番目、消防ホースのノズル盗難が県下で多発しております。本町も5月15日現在で291本、被害総額、約195万円が被害にあっております。緊急時、作業に甚大な影響が出るのが予想されます。扉にセンサーをつけて開けるとブザーが鳴るなど、何か対策を考えてみえるのでしょうか。

以上、お答えください。

○議長(木村 宗朝君) 早川正総務部長。

○総務部長(早川 正君) 防災・減災のご質問にお答えをさせていただきます。

1点目の障がい者の防災訓練参加の必要性及び今後の取り組みについてのご質問でございますが、現在、各自主防災組織において、さまざまな内容で訓練を行っていただいております。

中でも安否確認訓練につきましては、住民同士が隣近所の安否を確認し、地域住民で助け合い、避難所へ退避をすることを目的とした訓練であり、災害時要援護者を避難所まで退避させることを想定した訓練も実施いただいております。実際に災害時要援護者の方が何名訓練に参加いただいているかということにつきましては、現在把握していない状況でございます。

また、自主防災組織での訓練は、町も指導させていただいておりますが、基本的には地域で訓練内容を検討をいただいております。今後も災害時要援護者の皆さまも参加いただける訓練となるよう助言をしまいたいと考えております。

また、障がい者団体へも出向き、訓練参加への必要性を積極的に説明をしたいと考えておりますし、障がい者向けの研修等の実施も検討をしてみたいというふうに考えております。

次に2番目の防犯灯についてのご質問にお答えをさせていただきます。

町内の防犯灯の総数は平成25年度末現在で2,693基ありまして、平成21年度から順次LED化を図り、昨年度は142基の改修を行い、これまでにLED化を行った防犯灯が合計で348基で、進捗率は全体の約13%となっております。

これまで球切れの交換時に合わせて、古くなった防犯灯から順次取りかえを行っておりますが、省エネ・CO2排出削減等の環境面や電気料金の節減等が図られますことから、今後は計画的にLED化を進め、なるべく早期に全て完了できるよう実施をさせていただきますと考えております。

次に消防ホースの筒先盗難の対策についてのご質問ですが、5月初旬に消防ホースの筒先の盗難がございました。自治会の皆さまにご協力をいただき、早急に調査を行ったところ、291本の筒先が消火栓格納庫からなくなっていると報告をいただきました。

危機管理課におきましても町内パトロールを実施をするとともに、消防団に対し、町内パトロールを実施いただくよう要請も行ったところでございます。また、いなべ警察へ被害届を提出し、全ての現場検証も終えております。

今後の対応といたしまして、議員ご指摘のブザーによる対策はどうかとのことでございますが、約900カ所の消火栓ボックス全て設置するには、相当な費用も日数もかかりますことから、すぐにできる対応といたしまして、各自治会長の皆さまに対応策を例示をさせていただきます、お願いをしているところでございます。今後も自治会の皆さまと協議を重ね、盗難防止対策を講じてまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願いを申し上げます。

○議長(木村 宗朝君) 島田議員。

○3番(島田 正彦君) ありがとうございます。

障がい者の方はまだ訓練には現在は参加されてないと。想定訓練ということでもよろしいですね。障がい者と地域住民の両者にとって、防災訓練に参加するということは、お互いの存在を知り、理解を深め、地域での災害への備えにつながると思いますので、これはもうぜひ募っていただくというのもちよっとおかしいですけど、障がい者が非常に出づらいつい雰囲気があるんですね。データをとりますと、参加することは身体的に難しいし、まず体が言うことをきかないし、参加しづらいつい雰囲気があるというのは50%ぐらい、出たいんだけど参加がしづらいつい。もっと参加しやすくしてほしいというのが約7割ですね。状況によって参加してもいいよというデータが、全国的なデータですけど出ております。

現在、障がい者及び障がい者の同居家族の防災訓練の参加状況というのは、障がい者だけで全国でも18%出ておられます。障がい者の同居家族については26.5%ですね。大体被害が起こるときには健常者の2倍から3倍ぐらい被害が、逃げ遅れということで

ありますので、これはもう想定ではなくて、非常に募るというのは難しいと思うんですけど、その辺を何か条項を自治会を通じてするなり、やはりそういう方に出ていただくということは、一人でも二人でも出ていただければ参加は増えてくると思うんですね。ぜひそれ、努力をしていただきたいと思います。

それとLEDへの切りかえなんですけど、これやはり元々の出発点というのは経費の節減なんです。それとCO2とおっしゃいましたけど、そういう利点がいっぱいありますので、ランニングコストを見ていただいて、壊れました、また旧の蛍光灯にかえているという話も聞いてますので、そんなことをしていただければいいんですけど、なるべく早期にというような、漠然としたようなお答えをいただいているんですけど、いつまでにやるというリミットをつくっていただかないと、こんなもん、いつまでたっても同じことの繰り返しだと思います。切りかえるときは全部LEDにかえるんだと。それをまだ残っているから従来の物にかえると、この繰り返しをしていたら、それはまた5年なり寿命がありますからね、これはもう10年たってもかわらないと思います。全国では全部一掃してかえたところもありますので、これは国から何か支援とか、そういう助成金はないのでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷真人生活福祉部長。

○生活福祉部長(水谷 真人君) LEDの関係でございませんですけども、議員がおっしゃるような財政的な支援はございません。それで言われますように、現在の方法をとっておりますと、何年かかるかわからない状況ですので、財政とも相談しながら、なるべく早く計画を立てて進めたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長(木村 宗朝君) 島田議員。

○3番(島田 正彦君) ランニングコストを提示してください。どっちが何年先に得なのか。そういうものを計算した上で、なるべく早い時期にと言われても、その時期がいつか、私はつかめませんので、きちっとしたランニングコストを出していただいて、5年なら採算がとれるんだとか、そういうまた提示をしていただいただけませんか。

消火栓のホースのノズルなんですけど、桑名市は多度町、長島町、特に田舎のほうでかなりやられてますね。川越町は被害は3回目になってます。総数は100本。今後はアルミに全部かえるという方向でやられております。うちのほうもアルミにかえているんですね。いなべ市が平成25年度で207本やられてまして、アルミに交換した分は盗難は一切ないということですので、やはりアルミの効果というのは大きいと思います。ぜひそういうことでブザーとか、そういうことはなかなか難しいですから、自治会を通じたり、その辺で皆さんの啓蒙を図っていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

続きまして3番目、ジェネリック医薬品について。

ちょうど1年前の6月議会で、ジェネリックに関していくつかの質問をさせていただきました。県が市町に対して行ったアンケート調査では、被保険者に対して現在服用中の医薬品をジェネリックにかえた場合、負担金がいくら安くなるのか、差額通知を提示し、ジェネリックに変更を促すものです。

広島県呉市では平成20年からこれを取り組み、月間3,000通、差額通知を出して、平成24年度の実績では、経費を差し引いても1億3,350万円の薬剤費を削減しております。また、ジェネリックの切りかえ率は80%にも達しております。本町も高齢化により医療費が高騰する中、差額通知を出し、ジェネリックに切りかえていくことが急務と考えますが、いかがでしょうか。

2番目、平成24年度の医療費諸費用ですね、21億9,600万円のうち、調剤費用が3億8,800万円かかっております。構成比で17.3%になります。ジェネリックの告知は広報とかホームページでやられているとお聞きしておりますが、高齢者の多い本町では、その効果は余り期待できません。1年計画で毎月差額通知を出し、本年度末にそれを検証し、その効果を数値化し、町民の方にこれだけ経費の削減になったという提示をすることが一番わかりやすいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷眞人生活福祉部長。

○生活福祉部長(水谷 眞人君) 島田議員のジェネリック医薬品についてのご質問にお答えをいたします。

議員ご指摘のとおり、後発医薬品、いわゆるジェネリック医薬品は、先発医薬品と品質・有効性・安全性が同等で価格が安価であるため、ジェネリック医薬品を普及させることは医療費の削減に大きな効果をもたらすことから、厚生労働省はジェネリック医薬品の数量シェアを平成30年3月までに60%以上とすることを目標と定めております。

このジェネリック医薬品への切りかえを促進するため、現在服用している医薬品をジェネリック医薬品に切りかえた場合にどれだけ安くなるか、被保険者の方にお知らせするものが差額通知でございます。議員ご承知のように、差額通知を送付することにより、医療費の削減に大きな成果を上げている自治体がございます。

昨年の6月議会において、この差額通知の実施についてのご質問がございましたが、三重県では昨年7月開催の県国保広域化等連携会議において、差額通知の実施についての県の素案が示され、各市町への意向調査及び県医師会との調整を経て、昨年9月に、平成26年度以降、準備の整った市町から速やかに実施するとする県の考え方が示されました。

この考え方をもとに、平成26年度から三重県国民健康保険団体連合会がジェネリック医薬品差額通知の共同処理事業を立ち上げ、本町もこの事業に参加をいたしております。

具体的な内容といたしましては、主に生活習慣病や慢性疾患に関連した医薬品で、14日以上投与されたものを対象医薬品とし、20歳以上の国保被保険者で200円以上の差額が発生した方が差額通知の送付対象となります。通知の送付は、今年度につきましては年1回でございますが、平成27年2月の送付を予定しております。

なお、後期高齢者医療制度の被保険者につきましては、昨年度から年1回、2月に三重県後期高齢者医療広域連合から差額通知が送付されております。

次にジェネリック医薬品の普及に向けた広報等でございますが、これまでも町民の皆さまへは「広報とういん」への掲載や、国民健康保険の保険証更新時にジェネリック医薬品希望カードつきのリーフレットを配布し、普及啓発を行ってまいりました。

今後も引き続き同様の周知を行うほか、差額通知送付後の医薬品の利用実態及び削減効果等の分析が国保連合会により行われることから、この検証結果を広報やホームページで町民の皆さまにお知らせし、ジェネリック医薬品の普及啓発を行ってまいりたいと考えております。

国民健康保険の健全な財政運営のため、ジェネリック医薬品の普及啓発のほか、町民の皆さまの健康づくりを推進し、医療費の削減に努めてまいりますので、ご理解賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長(木村 宗朝君) 島田議員。

○3番(島田 正彦君) ありがとうございます。

今言われました、切りかえ時にいろいろな形でPRされているというのはこれですね。桑名市も立派なものをつくられてまして、こういうもので、こっちが東員町ですね(島田議員 資料提示)。これが果たしてどこまで効果が今のところあるのかどうか、ちょっとわかりませんが、差額通知に勝るものはないと思います。例えば5,000円自分が使っているのが2,500円になったといえ、患者さんも安いほうにいくということなので、それが余り明確にされてないのに、医師会の問題とか薬剤師の問題とか、なかなかそこまで今踏み込んでないというのが実態なんですね。そこがうまくいけば、かなりスムーズに進むと思います。

桑名市が差額通知を出されるのは平成27年2月ということで決められているそうです。いなべ市が平成27年1月、うちが平成27年2月ということですか。そういうふうになれば、非常にスムーズにいくんじゃないかと思います。平成37年度、あと10年ちょっとたちますと、我々団塊世代が700万人いるんですけど、後期高齢者になります。ますます国民医療費が増えて70兆円にもふくれ上がると予想されております。こうした中で切り札としてジェネリックがありますので、ぜひよろしくお願いいたします。

今朝の朝日新聞の朝刊を見てましたら、政府が6月末閣議決定する経済財政運営と改革基本方針の中に、医療費の伸びを抑えるために都道府県ごとに適切な医療費の数値目標を立てるというのが出ておりました。その中に薬の価格の引き下げを施すことも盛り込んでありますので、ジェネリック切りかえに拍車がかかるものだと思いますので、ぜひ差額通知をいち早くやっていただくように、よろしくお願いいたします。

最後の質問になりますけれど、北勢線の存続について。

6月7日にマルシェがあったんですけど、北勢線の乗車率を見たんですけど、残念ながら車でみえる方が多いもので、ほとんど普通の土曜日と乗車率が変わっておりません。またこれもちょっと、いろいろ考えていきたいと思っております。

先月、北勢線事業運営協議会が桑名で開催されまして、私は傍聴しました。昨年11月オープンのイオン東員の影響もあり、三岐鉄道になって過去最高の乗客数、収入を記録しました。輸送人数が247万人、これは昨年と比べて11万3,000人増えております。旅客収入、3億8,100万人、2,060万人増えております。これは約6%ぐらいですね。それにもかかわらず、3億円の赤字というのは全然解消はしておりません。本町として、北勢線に対しての今後の取り組みをお聞かせください。

2番目、もし存続ということであれば、桑名市、いなべ市と連携を強化しながら観光の掘り起こしと有効なPRが必要だと思います。三岐鉄道のみでの提案を待つのではなく、中部公園、イオン東員など、集客数の多いところとの連携、また今、全国的に黒部のトロッコ列車、内部・八王子、軌間762ミリメートル・ナロゲージの全国的な発信が重要だと思います。近隣市町だけではなく、グローバルなPR戦力が必要です。一過性の企画はその時のみの集客で終わります。何かプランでもお持ちならお伺いします。

○議長(木村 宗朝君) 早川正総務部長。

○総務部長(早川 正君) 北勢線の存続についてのご質問にお答えをいたします。

北勢線は平成15年4月から、沿線2市1町、桑名市、いなべ市、東員町により10年間支援することとし、三岐鉄道が運行してまいりました。

官民一体での取り組みの中で、乗客数の増加及び赤字額の減少は見込まれたものの、まだまだ解消には至らず、11年目以降につきましても三岐鉄道から支援要請があり、平成25年度から平成27年度までの3カ年を引き続き暫定支援する方針を決定し、現在に至っております。

お尋ねの北勢線への今後の取り組みについてでございますが、全国的に地域交通機関は人口減少社会において利用者の減少が進み、その経営が懸念されております。北勢線は、議員ご案内のとおり5月27日に開催されました北勢線事業運営協議会での北勢線の事業運営報告にもございましたように、平成25年度は約250万人弱の方にご利用をいただいております。この地域の住民の日常生活に必要な交通手段であり、また、沿線市町の活力を維持向上させる上でも重要な社会基盤の一つであると考えております。

いずれにいたしましても、沿線市町の支援期間は残すところ2年となりましたことから、平成26年度中には、今年度中には、平成28年度以降の支援の方向性について決定してまいりたいと考えているところでございます。

2点目の利用促進策についてのご質問でございますが、現在のところ、北勢線事業運営協議会をはじめ、各市町や三岐鉄道の利用促進及び啓発事業といたしましては、北勢線沿線市町の住民を対象に北勢線を活用したハイキングの実施、サンタ列車などのイベント電車の運行等、さまざまな形で北勢線を身近に感じていただくイベントなどを中心に実施いたしております。

さらに今年度は本町のイベントとして、開業100周年を迎えた北勢線を題材とした「ナローは続くよどこまでも」と題したミュージカルを11月に開催を予定しているところございまして、北勢線をよりPRをしてまいりたいと思っております。このイベントには多くの方々に北勢線をご利用いただき、ご来場いただければと考えております。

今後は沿線市町の住民のみではなく、県外の方にも北勢線の魅力を情報発信する手法について、事務担当者の会議でも検討しておりまして、ホームページへの掲載はもとより、多方面の方が集まるイオンモール東員の活用や四日市市の内部・八王子線とも連携をしたイベント等についても検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

○議長(木村 宗朝君) 島田議員。

○3番(島田 正彦君) ありがとうございます。

いろんな市町で、沿線を残すために非常に努力をされております。非常に厳しい中、努力をされておまして、内部・八王子線も四日市あすなろ鉄道ということで、平成26年3月、スタートの目標は平成27年7月ですね、まだ国から認可が下りてないということでやっております。これは四日市市が25%、近鉄が75%、公有民営方式という方式でスタートしております。ここも北勢線と同じく、毎年3億円弱の赤字が出ております。1970年代のピーク時には720万人あったのが、今半減して360万人なんですね。

今、北勢線のいろんなお話があったんですけど、やはり250万人利用されているということは、非常に大きいと思うんですね。私はなるべく存続していただきたいです。ただ、存続するのに、三岐とか、向こう側だけに頼らずに、うちのほうもコーディネートしたものを出して、相互企画でやっていただかないとなかなか難しいと思います。

養老鉄道というのがありまして、これも平成19年10月から桑名市、大垣市、海津市、養老町、神戸町、揖斐川町、池田町、3市4町で近畿日本鉄道と養老鉄道を再出発しております。初年度平成19年には14億円赤字がありまして、平成25年度は9億円の赤字で、6年間で5億円の赤字を削減しております。皆さん本当に努力されて、裏方には観光とドッキングしたり、いろんな苦勞をされております。

例えば江ノ島に江ノ島電鉄というのがあるんですけど、やはり桜が見れるような風景をやったり、箱根電鉄ではあじさい、私どもだったらコスモスがありますので、その期間だけでも沿線沿いにずっとコスモスを張り詰めるとか、そういうような夢のあるような形でやっていただきたいと思っておりますけれど、町長、何かプランニングはございますか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷俊郎町長。

○町長(水谷 俊郎君) 北勢線のみならず、全国の鉄道というのは、特に地方鉄道はなかなか採算が合わない状況になっております。ただ、最近のブームとして鉄道ブームがございまして、極端な話ですけど九州の七つ星、それから和歌山電鉄だとか、いろんなところで鉄道ブームがある。これは普通の通勤・通学だけではなく、観光というものにスポットを当てて入り込み客を増やしてみえるという、この努力が伺われます。

そんな中でいろんな北勢線に関してもお話を私、させていただいているのですが、一義的には主体である三岐鉄道さんの努力、これが必要であるというふうに思っておりますが、例えば観光入り込み客を増やしていくということであるならば、何かキャッチフレーズが必要ではないか、全国へアピールするキャッチフレーズが必要ではないかなと。例えば日本一小さい電車、日本一遅い電車、こんなことを発信すればいいのではないかな、みたいなことも思っております、遅いのであれば、例えば通勤・通学時間帯と昼間の時間帯と少し運行形態を変える、そして例えば今、議員お話がありましたコスモスの時期になりましたら、そこで電車を10分、15分とめてみると。そして電車から降りていただいて写真を撮っていただいても結構ですよ、みたいなことをやってもいいんじゃないかな、みたいなことも個人的に思っておりますが、そんなトライもしてほしいなというふうに思ってます。

今、総務部長が申し上げましたミュージカル、この11月に100周年記念をしまして、ミュージカルをひばりホールでやらさせていただく計画が進んでおりますが、例えばこういうミュージカルでも西桑名駅にゲートをつくりまして、そんな大層なものでもなくてもいいのです。ゲートをつくって、ミュージカルの入場門は西桑名のこのゲートですよということで、そこから入場していただいてミュージカルに入るわけですね。そして電車に乗って東員駅で降りていただいて、歩いてひばりホールへ来ていただいて、本当のミュージカルを見ていただく。ゲートを西桑名駅につくることによって、何かそこで入場のメリットがあるみたいなイベント、働きかけ、そういうことをやっていくとか、そんな少し夢のあるような仕掛け、こういうものが必要なのではないかなと思っております。

少なくとも通常の通勤・通学がこれから増えていくということは非常に考えにくい。そうすれば観光入り込み客として外から呼び込むことというのを真剣に考えていかなければならない。それには特徴のある何か仕掛けというものが必要なのではないかなというふうに思っております、議員のご指摘のとおりでございますので、我々といたしましても努力を重ねてまいりたいというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 島田議員。

○3番(島田 正彦君) まさにそのとおりだと思うんですね。

観光はもう仕掛けです。仕掛けしなくて待っていても増えません。いろんな仕掛けをしまくって、出し切れないぐらいいろんなネタを出して相乗効果をねらっていくと、なかなか北勢線もそうですし、東員町も活性化できません。

沿線市町で協議されて、平成26年度予算の経費を355万円ぐらい削減していただきました。こういう交渉もあわせてぜひお願いしたいと思いますし、これはもう個々でやるのではなくて、皆さん全員が北勢線をもしやるのであれば残すんだと。それは東員町のためになる、活性化のためになるという裏づけがあって初めて動けることですので、ぜひ私は期待して質問を終わります。

ありがとうございました。